

乳がん地域連携 クリニカルパス 薬局連携について

松江赤十字病院

がん地域連携パスコーディネーター

佐藤 美幸



松江市内保険調剤薬局との連携

昨年度より、松江市薬剤師会と協働して
乳がん連携パス患者に対し

患者支援体制を強化するため

かかりつけの薬剤師も加わってもら
システム作りに取り組んできた

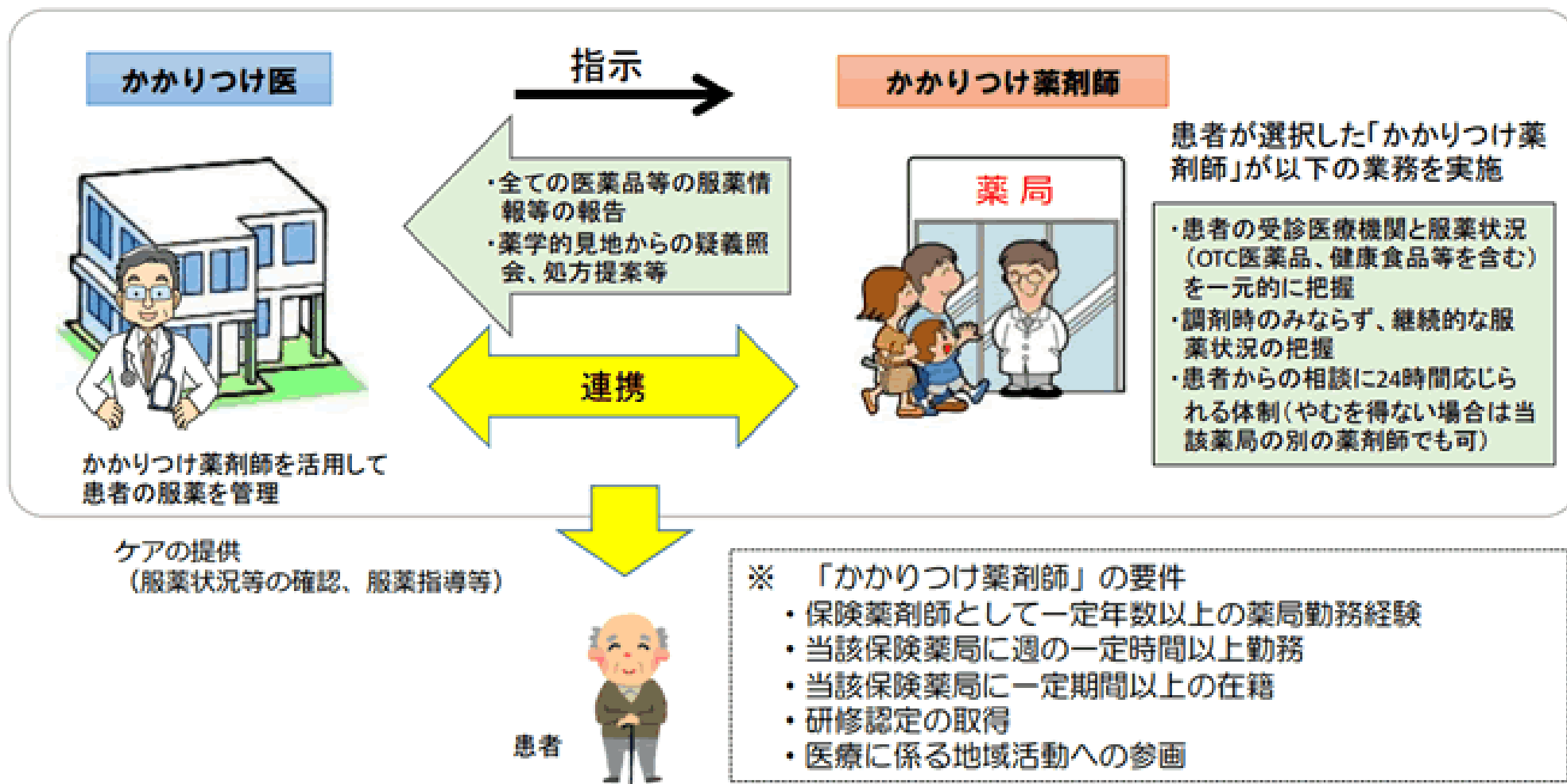
かかりつけ医とかかりつけ薬剤師の連携

かかりつけ薬剤師は、患者の服薬状況を一元的・継続的に把握し、それに基づき患者へ指導等を行う。また、得られた患者情報に基づき、かかりつけ医に服薬情報等を報告するとともに、薬学的見地から処方内容の疑義照会や処方提案等を行う。

診療報酬改定 薬機法改定



医薬分業が進んで かかりつけ医 かかりつけ薬剤師 連携の強化



平成28年度

調剤報酬改定及び 薬剤関
連の診療報酬改定の概要

厚生労働省

保険局医療課

薬局連携の内容

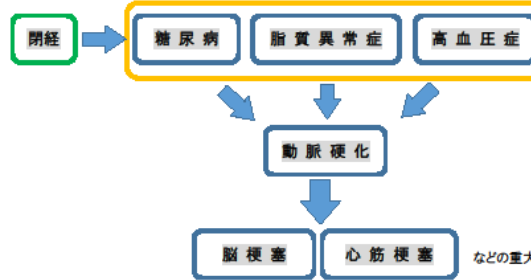
- ①ホルモン剤初回処方時に薬剤師会で作成された説明リーフレットを用いて服薬指導を行う
- ②服薬2週間後の電話訪問
- ③患者が調剤薬局で『私のカルテ』と残薬を提出し薬剤師が残数チェックを行う
- ④残薬が多い場合や有害事象がある場合は処方元（連携医療機関）へ情報提供を行う
- ⑤BMIを算定し体重・健康管理の意識を高める支援を行う

乳がんホルモン療法を受けられる方へ

乳がんの治療だけでなく、糖尿病や動脈硬化にも注意！

女性ホルモンの働きには、血管をしなやかに保ち、動脈硬化の予防や内臓脂肪の分解をしやすくするなどがあり、女性ホルモンには生活習慣病の発症を抑える作用があります。しかし乳がんホルモン療法により女性ホルモンの働きを抑えると女性ホルモンの保護がなくなり、「脂質異常症」「動脈硬化症」「糖尿病」「高血圧症」に加え、「体重増加」など生活習慣病のリスクが高まります。動脈硬化は、心筋梗塞や脳梗塞など、重大な病気を引き起こす危険因子であるため注意が必要です。また肥満、糖尿病があると乳がんの発症リスクを増加させると言われています。

生活習慣病のリスクが高まる



【高血圧症】

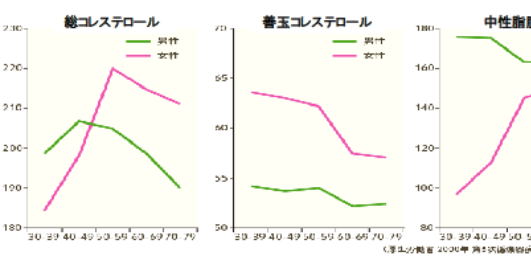
閉経前後から、動脈硬化が進行すると言われています。そのため血管の抵抗性が上昇し、

【脂質異常症(高コレステロール血症)】

閉経後の女性の血液中では、総コレステロール、LDL(悪玉)コレステロール、中性脂肪が増加

そしてHDL(善玉)コレステロールは減少します。

このような変化はいずれも動脈硬化を促進し、心臓や血管に悪影響を与えます。



乳がんホルモン療法の期間

乳がんには、がん細胞の増殖にエストロゲン(女性ホルモン)が関与する

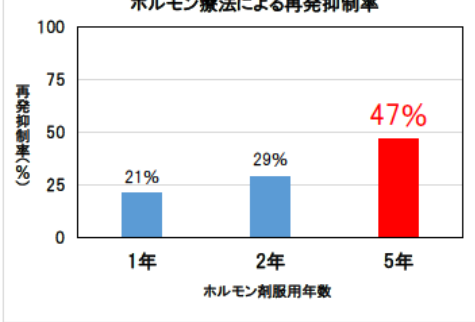
占めています。このようなエストロゲンで増殖するタイプの乳がんに対して

モン療法(内分泌療法)の効果が期待できます。乳がんホルモン療法は、最低でも5年間の服用が基本とされています。乳がんでは術後5年以降の再発もめずらしくないため、最近では10年間

てきています。少なくとも5年以上の内服が必要です。

下のグラフは、ホルモン療法を続けた年数別で、その10年後にどれだけ

たグラフです。5年間ホルモン療法を行うと再発を47%抑えることができたとの報告が



つまり、再発する可能性のある患者さんの約半数をホルモン療法で助け

5年間の内服で47%ですから、それ以上に服用を続ければ、再発を予

必要に応じて長く服用し、再発を防ぐことが重要とされています。また最

間行った患者さんのうち、内服率が90%以上の人と90%未満の人では再発率に

があります。忘れずにしっかりと内服を継続することも大事です。

◆ 副作用について

「ホルモン療法は5年～10年の内服が必要」ですが、そうなるとはやはり心配なのが「副作用」ではないでし

か。お薬には副作用が当然つきものですが、ホルモン療法には、命に関わる副作用は非常に少ないとされて

◆ 乳がんのホルモン療法

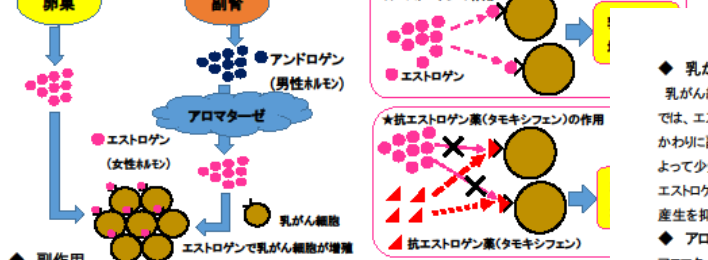
乳がん細胞の増殖を促進するエストロゲンが作られる場所は閉経前の女性と閉経後の女性で異なります。閉経前の女性

では、エストロゲンは主に卵巣で作られます。閉経後の女性では、卵巣機能が低下し、エストロゲンの量が減ります。しかし、かわりに副腎からアンドロゲンという男性ホルモ

ンが分泌され、脂肪組織などに存在しているアロマトラーゼという酵素の働きによって少量のエストロゲンが作られ続けます。

エストロゲンが、がん細胞内のエストロゲン受容体と結合すると、乳がん細胞が増殖します。ホルモン療法ではエストロゲンの

産生を抑えたり、エストロゲンがエストロゲン受容体に結合することを妨げることで、乳がん細胞の増殖を抑えます。



めてから数か月ほどで軽快していきますが、症状がひどいときや長く続く際は医師・薬剤師・看護師にご相談下さい。

★無月経・月経異常★生理が止まったり遅れたりすることがあります。また、おりものやかゆみ、膣の乾燥

れることがあります(1.5%)。性器からの出血が通常の月経以外のときに生じたり、月経の出血量に異常が

★子宮への影響★タモキシフェンの長期服用(2年以上)により、特に閉経後女性で子宮体がん、子宮

増す可能性があることが指摘されています。50歳以上の患者さんで2年以上の長期のタモキシフェン服

んになる可能性が2から4倍に増え(10年間で、もともと1,000人に2人くらいが子宮体がんになる可能

6人へ増える)、より長期に内服したほうがそのリスクは増えるといわれています。不正出血などの異常な

見られた場合には、医師・薬剤師・看護師までご相談ください。また、定期的に婦人科検診を受けるようにし

★脂質代謝異常★血液中の脂質、特に中性脂肪が高くなり脂肪肝になることがしばしばあります。また脂

と、血管内壁に脂質が沈着し、動脈の壁が厚く固くなっていきます(動脈硬化)。血栓症などの合併症につ

★血液への影響★血液が固まりやすくなるため、血栓(血の塊)が肺に流れていき、血管がつまる「肺

静脈に血栓がつまる「下肢静脈血栓症」などの血栓塞栓症が起こる可能性があります。起こる頻度はこ

息苦しき、下肢のむくみや痛み、しびれ、頭痛などの症状がありましたら医師・薬剤師・看護師までご相談

★心血管系への異常★血圧が高くなる可能性があり、心筋梗塞、心不全など心血管系への影響が

◆ 乳がんのホルモン療法

乳がん細胞の増殖を促進するエストロゲンが作られる場所は閉経前の女性と閉経後の女性で異なります。閉経前の女性

では、エストロゲンは主に卵巣で作られます。閉経後の女性では、卵巣機能が低下し、エストロゲンの量が減ります。しかし、

かわりに副腎からアンドロゲンという男性ホルモ

ンが分泌され、脂肪組織などに存在しているアロマトラーゼという酵素の働きによって少量のエストロゲンが作られ続けます。このため閉経の前と後では使う薬が異なることがあります。

エストロゲンが、がん細胞内のエストロゲン受容体と結合すると、乳がん細胞が増殖します。ホルモン療法ではエストロゲンの

産生を抑えたり、エストロゲンがエストロゲン受容体に結合することを邪魔することで、乳がん細胞の増殖を抑えます。

◆ アロマトラーゼ阻害薬(アナストロゾール・レトロゾール・エキセメスタン)

アロマトラーゼ阻害薬は閉経後の乳がんの方に使用します。体内のエストロゲンの産生を抑え、乳がん細胞が増殖しないよう

に働きます。



◆ 副作用

★更年期障害(ほてり・のぼせ、頭重感、不眠、情緒不安定など)★顔や体が部分的または全身的にのぼせたり、汗をかき

やすくなる場合があります(4～16%)。体内のエストロゲンの量が少なくなるために起こる副作用の一つです。エストロゲンが減ると体温調節がうまくできなくなることがあり、ほてりやのぼせのような症状や、汗をかきやすくなることがあります。通常、飲み

始めてから数か月ほどで軽快していきますが、症状がひどいときや長く続く際は医師・薬剤師・看護師にご相談下さい。漢方

★関節痛・骨粗しょう症などの骨異常★朝、指などの関節にこわばりを感じたり、肩やひじ、ひざなど体の節々に痛みを感じ

ることがあります(1～3%)。痛みがあり、つらい時は我慢せず医師に相談しましょう。また、骨がもろくなり、骨粗鬆症や骨折が

起こりやすくなる場合があります。エストロゲンは骨量を保つように働いています。アロマトラーゼ阻害薬服用により体内のエ

ストロゲン量が減少し、それに伴う骨量の減少により、骨粗鬆症や骨折を起こす可能性があります。治療前には骨密度を測定し、

治療開始後は年に1回程度骨密度の測定をしましょう。また、日頃からカルシウムやビタミンDを含んだバランスのよい食事

★脂質代謝異常★アナストロゾール・レトロゾール服用患者さんで、血液中の脂質、コレステロールと中性脂肪が高くなる可

能性があります(0.2～9%)。脂質代謝異常が続くと、血管内壁に脂質が沈着し、動脈の壁が厚く固くなっていきます(動脈硬

化)。血栓症などの合併症につながることもありますので、定期的に診察を受け、採血の結果を確認しましょう。

★血液への影響★血液が固まりやすくなるため、血栓(血の塊)が肺に流れていき、血管がつまる「肺塞栓症」、下肢の静



市内6か所の調剤薬局と
隣接する連携医療機関を
訪問させていただきました。

日本調剤薬局・母衣町薬局
ウェルネス薬局春日店
あさひ薬局・オール薬局
ハーブ薬局



連携患者さんの声



【A患者】

・ホルモン剤を飲むことに不安が強かったが飲み始めて2週間後に電話がかかってきて副作用のチェックや飲み方について改めて説明をくださったおかげで安心できた。

【B患者】

・連携医の先生が残薬調整をして処方箋をくださるので、薬局には残薬を持って行かなくてもいいかなと思う。

【C患者】

・診察時に先生にお話ししたことをまた薬局で同じ内容を話さないといけないことがあるので何となく面倒・・・。

【D患者】

・最初はカルテを出すこと・残薬を持って行くことが手間のように思っていたが、先日は薬をまとめてくださって（一包化）とても助かった。飲み方について相談してよかった。

調剤薬局の声



【A薬局】

- ・初めの頃は患者自ら『私のカルテ』を出されていたが最近では薬局の方からカルテをお持ちでしょうか？と声をかけることもある。
- ・残薬確認で10錠以上余っている患者については連携医へ情報提供をおこなった。

【B薬局】

- ・副作用の有無も含めて服薬情報提供書を活用して基幹病院へ報告をおこなっている。

【C薬局】

- ・当薬局を利用されている患者でホルモン治療をされている方が数名いるが、『私のカルテ』を出されない限り連携患者かどうかわからない。

【D薬局】

- ・患者が高齢のため、薬を受け取りに来るのは家族の方なので、本人から直接お話を聞く機会がない。

見えてきた問題点と課題

【患者】

- ・『私のカルテ』を出す方・出さない方がいる
- ・薬局に『私のカルテ』を出すこと・残薬を持参することに対してネガティブな反応が見られる

【調剤薬局】

- ・『私のカルテ』を出されない限り連携患者であるかどうかの確認が難しい
- ・松江市内の連携医療機関と調剤薬局へシステムの周知が徹底できていない
(安来・雲南・隠岐圏域への周知はどうするのか?)

課題を踏まえて今後の支援方法

患者さん一人ひとりの
アドヒアランスの向上や
健康管理の支援のため

【患者へのアプローチ】

- ・ 薬局支援内容を説明し、『私のカルテ』を通じて連携医療機関・調剤薬局・基幹病院がそれぞれ連携して患者を支えていることを伝えていく。
- ・ 基幹病院受診時には『私のカルテ』の提出状況や内服できているかの確認をコーディネーターが行う。

【調剤薬局へのアプローチ】

- ・ 連携患者が利用されている調剤薬局へ出向いて行き、支援内容や連携方法を継続して説明をおこなっていく。

10年目を迎えた患者さんへ

乳がん地域連携パス 10年目を迎えられた患者様へ

本日無事に術後10年の節目の日と一緒に迎えられたことを
嬉しく思います。
卒業証書の代わりにピンクリボンのストラップをお送りします。

今後はご自身が主治医となって

-  月に1回の乳房のセルフチェック
-  年に1回の乳がん検診
-  異常があれば早めの受診

をしていただきますようお願いします。



松江赤十字病院
乳腺外科／地域連携パス スタッフ一同

外来通院終了のタイミングで
ピンクリボンのストラップと
メッセージカードを添えて
お渡ししています！



ご清聴ありがとうございました

患者さんを主体としたパス運用を目指し
連携医療機関・調剤薬局と
連携を図りながら
今後も努めて参ります。
ご協力をよろしくお願い致します。

